



# ひがし野

教育目標  
 真理(まこと)を求める生徒  
 情操(こころ)を深める生徒  
 身体(からだ)を鍛える生徒

令和2年



高め合い 磨き合い 感動し合い  
 「愛」いっぱい真岡東中

## 栃木県中学校駅伝競走大会における活躍

11月7日(土)に栃木県中学校駅伝大会が行われ、女子チームが見事、優勝の栄冠に輝きました。男子チームも第9位と大健闘。男女ともに、これまでの長きにわたる厳しい練習の成果を十分に発揮しました。女子チームは、12月5日(土)に実施される関東大会に出場します。毎朝、白い息を吐きながら、これまで以上に集中して練習に取り組んでいます。

長距離走は、外から見ている以上に辛く厳しい種目です。それらを乗り越えてきた生徒たちに、心から敬意を表するとともに、関東大会では、順位ではなく、各自が納得のいく走りをするを祈るばかりです。

### 小林厚也 監督の言葉

8月に特設駅伝部を結成し、猛暑の中、男女で声を掛け合いながら練習に励み、郡駅伝は男子2位、女子優勝という好結果で、2年連続のアベック県大会出場を決めた。まずは、「おめでとう」と言いたい。

迎えた県駅伝の女子は、那須地区との勝負ではなく、県優勝をかけて市貝とのマッチレースと予想していた。1区で区間4位という上々の滑り出しから2区・3区の連続区間賞でトップに躍り出るという理想的なレース運びであった。しかし、やはり市貝が強く16秒ビハインドでアンカーへと展開となった。予想外だったのが、宇河地区1位の瑞穂野中に4区終了時点で26秒離されていたことで、さすがに緊張感が走った。しかし、アンカーが3000mを9分55秒で走りきるといふ快走を演じ、初優勝へとつなげてくれた。爽快感さえ感じる圧巻の走りであった。

女子優勝の余韻が残る中での男子のレース。1区が女子同様区間4位の快走で、レースの流れに乗せてくれた。2区以後も多くの選手が自己ベストを更新する頑張りで、9位という予想を越えた順位を達成し、男子チームにも達成感が感じ取れた。

各選手はチームの合言葉である「自分の一秒はチームの一秒」を胸に刻み、最終周の他校とのマッチレースでも一歩も引かず、苦しく足が動かなくても必死に食らいついた。また、郡・県大会ともに献身的にチームのサポートに入ってくれた付き添いの生徒の存在も大きかった。まさに、チーム一丸となって掴んだ関東大会である。関東大会では、今までの練習成果を十分に発揮し、関東の強豪と堂々と渡り合ってくれるだろうと期待している。県駅伝初優勝、おめでとう。そして、大きな感動をありがとう。



## 日本管楽合奏コンテスト全国大会出場・最優秀賞

今年度はホール等によるコンクールが開催できなかった吹奏楽。それらに代わって、動画審査による「日本管楽合奏コンテスト」が実施され、本校吹奏楽部が、厳しいCD審査を通過し、全国大会出場を果たしました。その動画が、11月14日(土)に配信されました。チケットを購入した方だけの視聴でしたが、少ない人数にもかかわらず、厚みのある響きと澄んだ音色に、心を引き寄せられてしまいました。そして、見事、最優秀賞に輝きました。

放課後の延長練習を見に行くと、疲労の色を隠せない時もありましたが、それでも必死に演奏する吹奏楽部の生徒の努力には脱帽です。全員的心を一つにしたからこそ、奏でることのできた音楽。吹奏楽部の生徒のこれまでの努力に、心から敬意を表します。



### 小宅宏美 顧問・指揮者の言葉

例年のようにコンクールが行われない中で、完成度を高めた曲を一気に仕上げていくことが今年度は難しかったと感じています。段階を踏んでステージで演奏することもなく、9/22に録音をしてコンテストに出しました。10/3に井頭公園で初めて人前で演奏しました。その後、10/23のひがし野祭後の10/25に全国大会の録画をしました。時間的なゆとりは全くなく、ここまで仕上げるのに精一杯でした。限られた時間の中で、常に良い音を求め、美しいソロ、アンサンブル、一体感のある演奏を目指して頑張ることができました。3年生4人、1・2年生15人全員で努力した結果、今年度も最優秀賞をいただくことができ、本当に良かったと思います。

毎日やり続けること、求め続けることがとても大切です。吹奏楽部の皆さん、皆さんの先輩が築いてきた努力の成果を今年度も引き継ぐことができました。皆さんおめでとう。そして、これからも努力していきましょう。

